

令和7年度の事業報告

1. 入館者について（※入館者とは有料入館者と無料入館者を合わせた用語です）

(1) 入館者数の推移集計

令和7年4月から令和8年1月までの入館者数は表1・図1・図2のとおりです。今年度は夏季特別展に実施した「はね展」が低学年向けのものではなかったためか、入館者数が伸びず、昨年度と比較して全体的に減少傾向にありました。一方、昨年度は「むしのうんこ展」が注目され、リニューアル初年度に匹敵する入館者数になりました。今年度の数字の落ち込みはこの落差によるものと思われます。

秋季特別展として開催した「モズのはやにえ 2025」は多くの方の関心を呼び、展示期間である11月・12月は昨年を超える入館者数になりました。現在展示中の冬季企画展「丹波の生活と川」は、ローカルな話題であるため、入館者の増加にはつながりにくいと予測しています。ただし、地域学習の授業で来館があったり、市内学校から発電所についての問い合わせがあったりと、市内の学校教育に貢献できる展示内容であることに加え、関連イベントも申し込みを多数いただいていることから、地域住民に貢献できるものになっていると考えています。

有料入館者数については、昨年無料期間であった期間に有料の特別展を実施しているため、見かけ上大きく増加しているように見えますが、単純に入館者数の推移を反映しているものではありません。

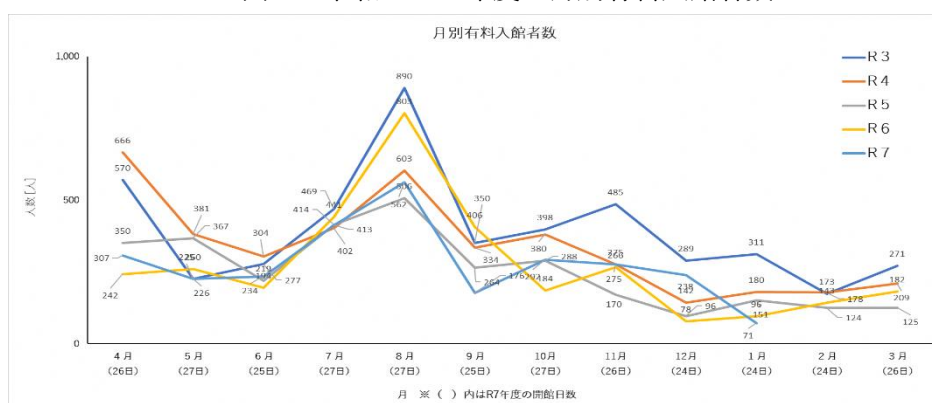
表1 令和7年度月別入館者数 ※（ ）内は前年度同月比

開館日数	機械カウント [人]	有料入館者数 [人]	入館料収入 [円]
4月 (26日)	2,518(86.5%)	307(126.9%)	63,370(134.9%)
5月 (27日)	2,091(78.1%)	225(86.5%)	42,140(79.8%)
6月 (25日)	2,020(86.3%)	234(120.6%)	46,400(134.2%)
7月 (27日)	2,756(77.3%)	413(93.7%)	75,090(90.3%)
8月 (27日)	2,825(63.9%)	562(70.0%)	108,230(68.1%)
9月 (25日)	1,552(65.7%)	176(43.3%)	35,640(43.5%)
10月 (27日)	1,845(77.2%)	292(158.7%)	54,170(156.2%)
11月 (26日)	2,467(121.9%)	275(103.4%)	56,100(130.5%)
12月 (24日)	1,484(114.3%)	238(305.1%)	48,660(316.2%)
1月 (24日)	641(45.9%)	71(74.0%)	14,690(82.3%)
2月 (24日)			
3月 (26日)			
合計 308日)			

図1 令和3～7年度 月別入館者数



図2 令和3～7年度 月別有料入館者数



(2) 入館者数の集計方法と目標について

現状入館者数については、施設入口に設置されている機械カウンターの数字を採用しています。

そこで、過去のデータとの比較のため、令和6年7月2日から令和7年1月31日までの期間で入館者数を手動で数え、機械カウント数と実数の値の違いを調べました。図3のとおり散布図と回帰直線を描画したところ、傾き約2.2の直線が得られ、機械カウンターの集計数は実人数の2.2倍の数字が算出されていることがわかりました。

施設の価値や運営方針を検討するために、集計に使用する値を慎重に見直す必要があります。また、現在は入館者数の目標を年間3万人に設定していますが、リニューアルから5年の節目で実状に合わせて数値を検討する時期ではないかと考えます。

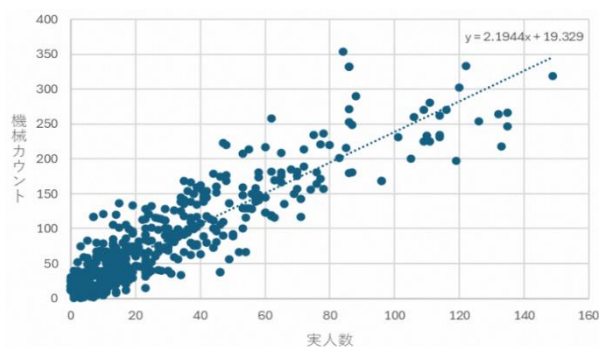


図3 機械カウントと実人数の関係

(3) 入館者アンケート集計

①アンケート集計

令和7年4月1日から令和8年1月31日までに収集したアンケート550件について集計しました。常設展の観覧チケットを購入した方を対象にしています。年代、お住まいの地域、当館を知った媒体、交通手段、入館回数、感想（任意）について回答いただいています。

年代別の入館者数は図4のとおりです。夏休みシーズンを終えても10代の入館の伸びが悪く、最も多く来館した世代は50代、次いで60代・40代が同程度で入館した結果になりました。

当館を知った媒体の回答については図5のとおりです。今年は館のSNS記事を頻繁にアップするようになったこと、市内のSNS広告の活用頻度を上げたことから、例年と比較してSNSを見て入館した方の割合が増えました。一方、HPの割合は下がったため、ウェブ媒体・紙媒体のバランスには昨年から大きな変化はありませんでした。

ウェブ媒体・紙媒体を合わせた館発信の広報を見て来館された方の割合は5年間でわずかながら増加傾向にあり、地道な広報が実を結んできていると考えられます。

入館回数の回答について、「市内」と「その他の地域」のリピーターの割合を図6のとおり集計しました。丹波市内にお住まいの方のリピーター割合・人数は昨年度と同程度でした。

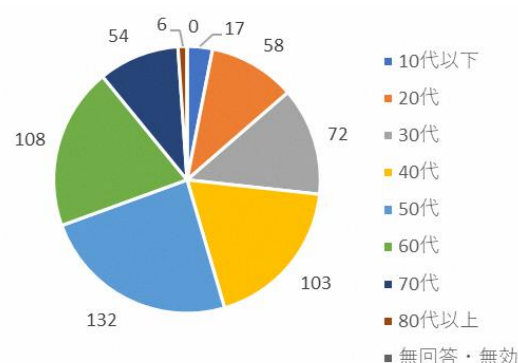


図4 年代別入館者数

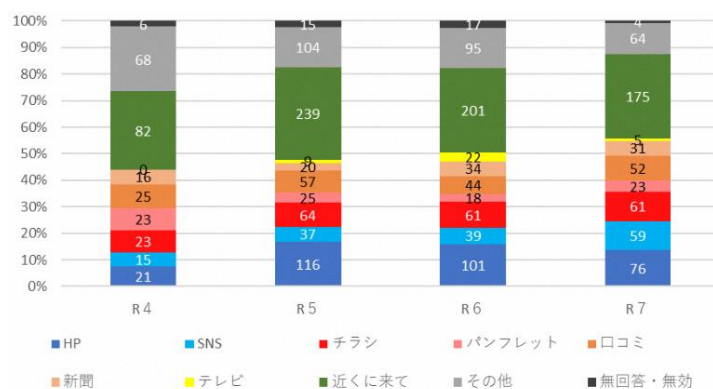


図5 令和4年度～令和7年度 広報媒体別入館者数

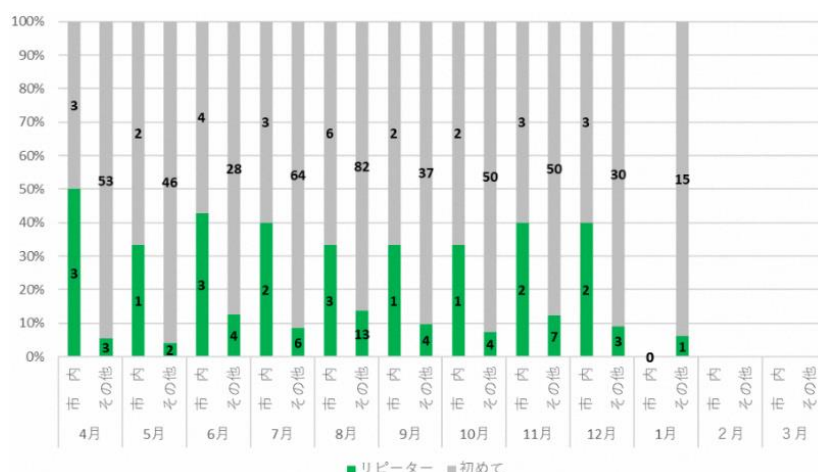


図6 令和7年度市内とその他の地域のリピーター割合

②自由記述集計

自由記述部分を内容に応じておおまかに分類して集計しました。ひとつの記述に多くの要素が含まれる場合は、それぞれ1件としてカウントしています。「勉強になった」という声が多く、次いで企画展・特別展について「面白かった」等のポジティブなコメントが得られました。また、昨年度寄せられた「解説が足りない」という意見については、今年は見られませんでした。代わりに「説明が丁寧だった」というコメントを17件寄せていただきました。スタッフと来館者の距離感が近い小規模館の特性を活かし、引き続き丁寧な対応を心がけていきたいと思います。

【ポジティブな意見】

自然・風景 5件
 子どもの遊び場 27件
 施設がきれい 6件
 スタッフの対応 9件
 勉強になった 199件
 説明が丁寧 17件
 企画展・特別展 76件
 その他 132件
 無回答 92件

【コメントなど】

宣伝が足りない 2件
 案内が足りない 1件
 企画展・特別展について 2件
 (難しい・標本がすくない)

(4) 団体受け入れ・施設利用

令和6年度4月1日～1月末の団体受け入れ・施設利用数(19団体・336名)に対し、本年度の団体受け入れ数は現在21団体・301名です。令和7年度は常設展観覧のための団体利用のほか、地域団体の交流会や展示会、丹有地区の教員研修会で多目的室や交流ギャラリーを使用していただきました。引き続き、施設利用を促し、水分れフィールドミュージアムの利用価値を上げていきたいと思っています。

2. 企画展およびワークショップについて

(1) 令和7年度に実施した展示およびワークショップ

令和7年度に実施した企画展およびワークショップは表2～4のとおりです。

表2 令和7年度 企画展・特別展

企画展名	協力	会期	日数 (休館日除く)	来館者数
夏季特別展 「はね展」	箕面公園昆虫館、兵庫県立人と自然の博物館、 伊丹市昆虫館、藤井幹氏、相模原市立博物館	6月21日(土)～8月31日(日)	62日	6,405人
秋季特別展 「モズのはやにえ2025」	伊丹市昆虫館	10月22日(水)～12月21日(日)	53日	4,113人
冬季企画展 「丹波の生活と川」	西脇市郷土資料館、南丹市文化資料館、兵庫県 立人と自然の博物館、丹波市旧上久下村営上滝 発電所記念館、青垣いきものふれあいの里	1月17日(土)～4月12日(日)	74日	
合計 3企画			189日	10,518人

表3 令和7年度 出張展示ほか

内容	日時	場所
青少年のための科学の祭典	令和7年7月27日(日)	市民プラザ ポップアップホール
市ミュージアム合同企画展 令和7年度職員の推したい一品 大阪・関西万博開催記念 「勝手にたんばフィールドバビリオンin 柏原藩陣屋跡」	令和7年10月4日(土) ～11月30日(日)	柏原藩陣屋跡
合同ワークショップ 「丹波ミュージアム・フェア」	令和8年1月12日(月・祝) 午後1時～午後4時	植野記念美術館2階研修室
共生のひろば	令和8年2月11日(水・祝) 午前10時15分～午後3時	兵庫県立人と自然の博物館

表4 令和7年度ワークショップ

月 日	曜日	内 容	参加人数(うち小中学生以下)
4/13	日	向井山 ヒカゲツツジハイキング	雨天中止
4/29	火祝	春の花のたたき染め	参加者なし
5/3	土祝	缶バッジづくり	15(11)
5/6	火祝	はっぱのしおりづくり	4(3)
5/31	土	ジオの教室 化石発掘体験①	11(5)
5/31	土	ジオの教室 化石発掘体験②	10(5)
5/31	土	ジオの教室 ミニツアー	21(2)
6/28	土	翅のある虫をつかまえて観察しよう	9(4)
7/6	日	昆虫の翅を知ろう	8(4)
7/20	日	生物に触れる夏の自然探索	13(8)
8/2	土	鳥の飛ぶ仕組みを知ろう	7(6)
8/16	土	羽根ペンづくり	16(12)
10/26	日	モズが好きな虫を探そう！	6(3)
11/23	日	バードウォッチング	9(4)
12/13	土	モズのはやにえを探そう！	16(5)

(2) 展示関連ワークショップのアンケート集計

各ワークショップ参加者を対象にアンケート調査を実施しました。年齢、お住まい、当館を知った広報媒体、ワークショップの満足度（学ぶことはあったか、楽しかったか、また参加したいか）について回答いただいています。

そのうち、企画展・特別展関連ワークショップ（6件）について、年代・お住まい・満足度の回答結果を企画展別に集計しました。満足度は5段階評価の平均点を算出しました。

① 夏季特別展「はね展」

箕面公園昆虫館で開催されていた「翅-かたちとしくみ-」の解説パネルを借用し、昆虫の翅・鳥類の羽根をテーマにした展示をおこないました。

アンケート結果は図7のとおりです。解説パネルの内容はややマニアック・専門的なもので、賛否両論がありましたが、生物に特に強い興味を持っている子どもたちからの問い合わせや展示関連イベントとして実施したクラフトを自由研究の参考にするために個別に解説して欲しいという依頼があり、難しいテーマに挑戦したことの効果が見られました。また、羽根ペンづくりは多くの申し込みがありました。夏休み中のイベントだったため、工作系のイベントが好まれたものと思われます。

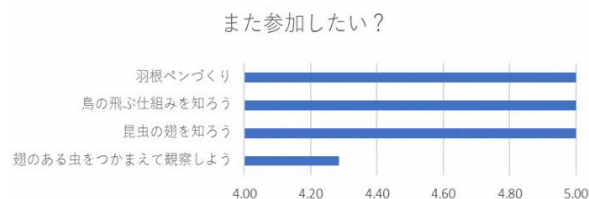
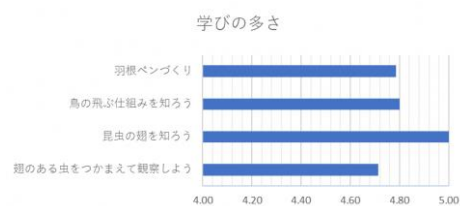
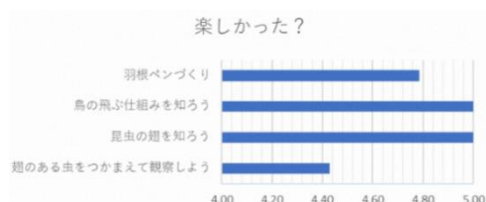
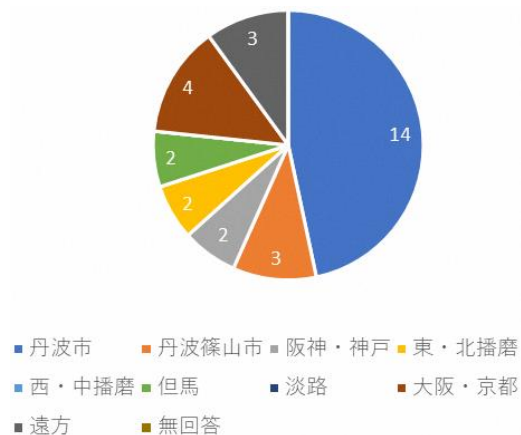
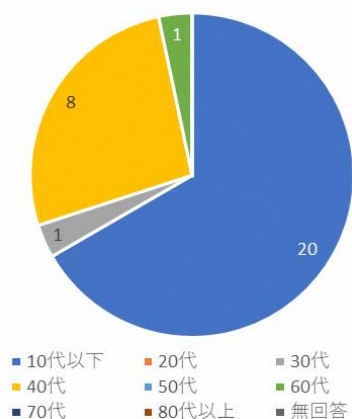


図7 「はね展」関連ワークショップのアンケート結果

② 秋季特別展「モズのはやにえ 2025」

伊丹市昆虫館からパッケージで展示を借用して実施しました。

関連ワークショップとして「モズが好きな虫を探そう！（※昆虫採集）」「モズのはやにえを探そう！」を実施しました。アンケート結果は図8のとおりです。昆虫採集イベントは雨天でしたが、講師として来られていた伊丹市昆虫館スタッフの方のご厚意で、昆虫ふれあい体験・昆虫の探し方動画鑑賞・野外ではやにえ探しを実施していただきました。「モズのはやにえを探そう！」では、(株)バイオームの西田氏にお越しいたき、はやにえ研究の取り組みについて講演いただいたのち、水分れフィールドミュージアム周辺をまわってモズのはやにえ探しをしました。

イベント・展示ともに子どもから大人まで幅広い年代に受け入れてもらえる内容でした。



図8 「モズのはやにえ 2025」関連ワークショップのアンケート結果

③ 冬季企画展「丹波の生活と川」

水分れフィールドミュージアム自前の展示として現在開催中の展示です。南丹市立文化博物館・西脇市郷土資料館の協力を得て、丹波市内での川の利用についての歴史や文化を紹介しています。館をリニューアルする前に展示していた資料も使用しています。

非常にローカルな内容のため入館者数につながりにくいことが予想されますが、舟運や氷上回廊など、館の特色を活かした展示になるように心がけています。

また、展示関連イベントとして加古川の舟運をたどるバスツアーを、水分れフィールドミュージアム友の会と共催で実施予定です。初めての試みですが、早い段階で申し込み枠が埋まったことから、関心の高さがうかがえました。



(3) 企画展・特別展の効果

特別展・企画展は難易度や対象が偏らないよう、文化系の展示や大人向けの展示を取り入れ、入館者数増加を期待して実施しています。実際に特別展が常設展観覧者の増加に寄与しているかどうかを検証するため、今年度の入館者アンケートの自由記述欄を見直したところ、常設展と特別展の両方について言及しているコメントが35件あり「モズのはやにえ 2025」においては常設展観覧者の増加につながったものと考えます。

企画展・特別展の内容は分水界に関連するものではないものの、多様な内容で魅力的な特別展を続けることが、結果的に氷上回廊や水分れの広報や入館者数の増加にプラスの効果をもたらしていると考えます。

3. みわかれいきもの調査隊

令和3年度から農業体験事業参加者を対象に実施してきたビオトープ調査グループを、今年度から「みわかれいきもの調査隊」に改称して新しいグループを発足しました。

1月末までの「みわかれいきもの調査隊」のイベントは表5のとおりです。現在6家族+大人の会員2名が登録しています。活動の中で作成した標本等を常設展やロビーの展示物として活用することを予定しているほか、今後は市内の学校と共同でイベントを実施したいと考えております。

表5 みわかれいきもの調査隊観察会・ワークショップ

調査	日程	人数	小人	大人
ビオトープセミナー	4/19(土)	11人	5人	6人
ビオトープ整備作業	4/27(日)	17人	10人	7人
封入標本をつくろう	5/10(土)	4人	4人	0人
ビオトープ整備作業	5/18(日)	2人	1人	1人
バードウォッチング	6/1(日)	7人	3人	4人
ビオトープ整備作業	6/22(日)	6人	3人	3人
科学の祭典準備	7/5(土)	2人	1人	1人
ビオトープ整備作業	7/19(土)	10人	5人	5人
科学の祭典	7/27(日)	12人	6人	6人
ビオトープの生物を調べて標本にしよう	8/9(土)	6人	3人	3人
ビオトープ整備作業	8/24(日)	6人	3人	3人
センサーカメラをかけよう	9/6(土)	10人	5人	5人
ビオトープ整備作業	9/28(日)	3人	2人	1人
センサーカメラを回収しよう	10/13(祝月)	7人	4人	3人
山にいる小さい哺乳類を調べよう	11/8(土)	8人	4人	4人
山にいる小さい哺乳類を調べよう	11/9(日)	8人	4人	4人
ビオトープ整備作業	11/22(土)	4人	2人	2人
ビオトープ整備作業	12/21(日)	6人	3人	3人
共生のひろば発表準備	12/28(日)	12人	7人	5人
共生のひろば発表準備	1/11(日)	14人	7人	7人
ビオトープ整備作業	1/18(日)	2人	1人	1人



4. その他イベントについて

・ 合同企画展

柏原藩陣屋跡を会場として、市内の教育施設で合同企画展を実施しました。今年度は万博開催を機に「勝手にたんばフィールドパビリオン in 柏原藩陣屋跡」と題し、大阪万博にゆかりのある品を持ち寄って展示しました。大阪万博が開催された1960年代は環境問題が社会の課題として挙げられていた年代であることから、水分れフィールドミュージアムからはオオサンショウウオやホトケドジョウなど、兵庫県レッドリストに登録されている種の標本を展示しました。



・ ミュージアムフェア

植野記念美術館にて実施された「ミュージアムフェア」へ出展しました。このイベントは市内の教育施設で協力しておこなうもので、各館でクラフト等を持ち寄って実施します。水分れフィールドミュージアムでは、リニューアルオープン時に作った「ミナミトミヨペーパークラフト」をワークショップとして出しました。会場全体の来館者数は18名でした。昨年おこなった合同イベント「恐竜フェスタ」と比較すると大きく人数が落ちましたが、イベント規模が大きく異なるため、比較はできません。



5. 学校対応

令和7年度に実施した学校対象の来館対応・出前授業は表6～8のとおりです。小中学校の来館数は令和6年度（10件・211名）とほぼ同程度、出前授業については令和6年度（6件・277名）と比較して減少しました。

また、こども園については令和6年度の来館数（5件・135名）から大きく数を減らしました。常設展示は未就学児にとって難解な内容であるため、こども園の来館数を増加するためには特別展・企画展を低学年用に合わせて工夫する必要があります。本年度は夏季特別展が中高生向きであったため、こども園の来館につながりにくかったと思われます。

表6 令和7年度来館小中学校

地域	来館校名	回数	人数
氷上	南小学校4-5年	1	19
県外	福知山高校附属中学校1年	1	39
春日	春日中学校1年	1	4
春日	船城小学校3年生	1	11
春日	大路小学校3年生	1	23
春日	春日中学校1年生	1	7
氷上	氷上中学校1年生	1	5
氷上	東小学校3年生	1	47
氷上	南小学校3年生	1	23
合 計		9	178

表7 令和7年度来館こども園

こども園	回数	人数
ミライズにじ	1	31
合 計	1	31

表8 令和7年度出前授業

出前授業	回数	人数
氷上高校1年生（6/24）	1	83
東小学校3年生（7/2.7/16）	2	86
学芸員実習生（大学生）	1	8
合 計	4	177

6. 館内の展示物修繕・整理・作製

リニューアル5年目を迎えて施設のメンテナンスや常設の展示物を見直す必要がでてきました。費用を抑えて修繕対応をするために、不具合が発生した際はまず原因を調べ、同時に施設にどのような機材を用いているか館員で把握するようにしています。

・モニターの交換

常設展で使用しているデジタルフォトフレームの輝度が低下・リモコンが故障したため、機材を発注・交換しました。その際、館員で機材の動作確認・取り付け方の確認をしています。



・PC

一階ロビーに使用されているPCが不調だったため、修繕依頼しました。不調の原因を探る際、館員で接続されている機材やその扱い方の確認をしています。



・ロビーの棚

ロビーに設置してある組手仕に棚を設置しました。従来は組手仕に平置きで物を置いていたため、子どもの視点から高い場所に置かれているものを見ることができませんでした。作製した棚は、トライやる・ウィーク等、館内の活動の成果を展示する場所として活用予定です。



・ミュージアムボックスの解説文追加

ミュージアムボックス内の物品について、遊び方や紹介資料が入っていないものが多いため、資料を作成・追加しました。



令和7年度の取り組み（目標）と達成率

令和6年度第1回運営委員会で掲げた目標について、達成したもの・及第点に至らないが取り組んだもの・取り組めなかったものに分類し、下記のとおりまとめました。

達成したものを1点、取り組んだものを0.5点、取り組めなかったものを0点として項目数で割ったところ、達成率は81%でした。

1. 博学・博博連携の推進

- ☒ 合同企画展の実施
- ☒ 市内教育施設連携誌（わっとみゅーじあむ）の作成
- ☒ 市内教育施設の合同イベント実施
- ▲ 小学校、中学校と連携のとれた授業の実施
- ☒ 他施設への出前講座の実施
- ☒ トライやる・ウィーク受け入れ

2. 地域やその他団体との連携

- ☒ 駐車場等の貸出
- ☒ 市内のグループ・個人を講師としたイベントの開催
→ 丹波野鳥の会会長の梅津節雄氏に講師としてお越しいただき、バードウォッチングを実施しました。
- ☒ ギャラリー、多目的室の貸出
→ 地域の書道教室や丹波市の起業家交流会など、地域の方の活動に施設を使っていたきました。

3. 施設管理等館内業務

- ☒ 職員向けの研修、定期的な会議の実施
→ 館内に使用している機材類の扱いの確認や全員ミーティングの実施をおこない、可能な限り業務の属人化を防ぐようにしました。
- ☐ 館内の物品（標本含む）の整備、リスト化
- ☐ 地域の自然・生き物の情報収集

4. その他

- ☒ ビオトープ調査

令和8年度の取り組み（目標）

令和8年度の取り組みを以下のように設定しました。

例年積み残してしまっている丹波市内の自然・生き物の情報収集と館内の物品のリスト化を優先的に実施予定です。

なお、トライやる・ウィークや市内教育施設合同企画展など、例年実施しているものについては記載していません。

1. 博学・博博連携の推進

- ・市内学校と連携した観察会・実習の実施
- ・貸出用標本の作製
- ・標本を活かした授業の考案・貸出用のキット作成
- ・展示で協力依頼する博物館を新たに2件以上増やす

2. 地域やその他団体との連携

- ・市内のグループ・個人を講師としたイベントの開催 2件以上
- ・ギャラリー、多目的室の貸出 3件以上
- ・水分れフィールドミュージアム友の会と協力したイベントの実施

3. 施設管理等館内業務

- ・職員向けの研修、定期的な会議の実施
- ・館内の物品（標本含む）の整備、リスト化
- ・地域の自然・生き物の情報収集
- ・ミュージアムボックスの充実
- ・丹波市の文化や水運・川・分水界等、館の特色にかかわる書籍を追加していく
- ・常設展の概要資料の作成
- ・個人収蔵の標本についての情報収集

令和8年度企画展・特別展（予定）

企画展名	協力	会期
夏季特別展 「チョウのくらし」	伊丹市昆虫館	7月8日(土)～10月4日(日)
秋季写真展 「撮っちゃったたんば2026」	受託事業者	10月下旬～12月中旬
冬季企画展 「分水界展」	兵庫県立人と自然の博物館	1月中旬～4月中旬